

「平和への声」

夢の中で広島
の鐘の音が聞こえる
窓の前で紙のつるが浮いている
ある老翁はりんごの木を植える
わたしが希望を失わないために

目が覚め、できるとは信じる
いつか夢が叶うことを
われわれがお互いに誠実な平和を築き合えることを
そして、憎しみや敵意が終わることを

気づこう、男女や児童が
地球のどこの国で暮らしていても
夢が似ていることを
同じことを望んでいることを

そうすると、あと一歩だけだ
手をつなぐだけで
誰も戦争に参加しない
そして、我々一人ひとりが対等になる

未だに世界は古き軌道に乗っている
平和は遠き理想郷に見える
しかし、私は今日からつるを折る
どうせ誰かがやらなければならないから